

道の駅知床・らうす デジタルサイネージ概要

1. 導入の目的と背景

本システムは、道の駅知床・らうすを訪れる観光客に対し、効果的な情報提供を行うことで観光行動を促進し、地域経済の活性化と関係人口の増加を目指すものです。観光情報のみならず、地域情報、防災情報など多岐にわたる情報を多言語（日本語・英語・簡体字・繁体字・韓国語）で配信可能なプラットフォームとして導入されました。



2. デジタルサイネージの特徴

・多言語対応プラットフォーム

訪日外国人観光客も直感的に操作可能な多言語 UI を採用。

・観光情報の網羅的発信

飲食店、観光スポット、公共施設等の情報をタッチパネル形式で分かりやすく提供。

・防災・緊急時対応

NTT ドコモのエリアメールと連動。緊急地震速報や津波警報発令時に、自動的に注意喚起画面へ切り替わる機能を搭載。

・リモート更新・監視システム

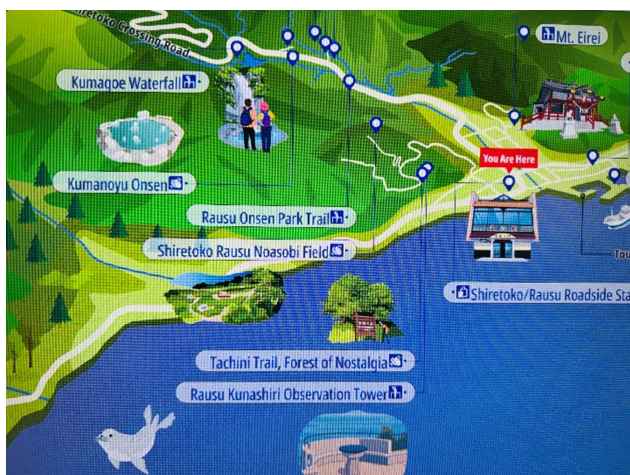
コンテンツの更新や稼働状況の遠隔監視を一元管理。



3. 羅臼国後展望塔の紹介

デジタルサイネージ内の「観光スポット」メニューにおいて、「羅臼国後展望塔」を主要施設の一つとして掲載しています。

施設詳細画面では、展望塔の概要（海拔 167m、市街地を一望できる点、北方領土問題に関する展示室など）や、道の駅からのアクセス情報を多言語で表示可能です。サイネージを通じて、観光地としての魅力発信だけでなく、北方領土問題の啓発の場としての認知向上を図ります。



4. システム運用の柔軟性

エリアメール連携に加え、手動による緊急・詳細情報の配信システムも備えています。エリアメールでカバーできない避難所情報の更新や、現場に特化した柔軟な情報発信が可能です。情報はタイムライン形式で表示され、常に最新の情報が上部に表示される仕様となっています。

5. 観光と北方領土啓発の相乗効果

- ・観光客への自然な導線:観光周遊中にデジタルサイネージを利用する過程で、北方領土に関する情報に触れる機会を創出。
- ・多言語による啓発の拡大:これまで日本語のみで提供されていた情報も、多言語対応により、海外からの観光客へ北方領土の現状を伝えることが可能。
- ・滞在型観光の推進:展望塔へ足を運ぶための具体的な情報提供により、羅臼での滞在時間を延ばし、地域文化への理解を深めていただく。

6. 今後の活用方針

北方領土担当としての視点からは、単なる観光案内に留まらず、本システムの持つ多言語発信力と更新の即時性を活かし、北方領土の歴史や現在の状況をより身近に感じてもらえるようなコンテンツの充実を図っていきます。また、観光担当と連携し、羅臼を訪れる方々が北方領土の啓発に関心を持てただけのような効果的な表示方法を継続的に検討します。